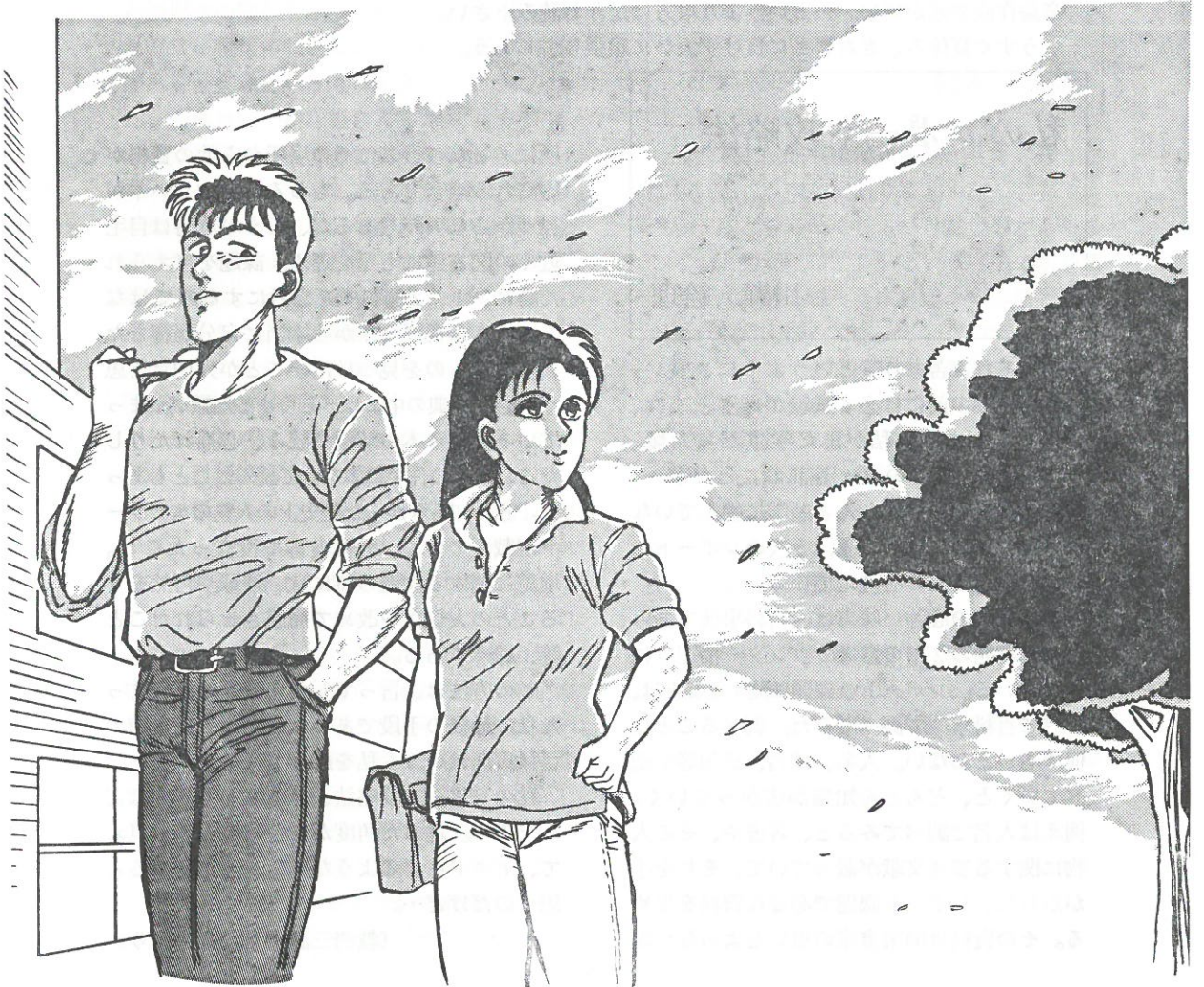


ΚΟΣΜΟΣ

コスモス No. 94 1991 夏

特集

コンビニエンス—^{シュエシー}学習—



特集

コンビニエンス—^{シュエ}—^{シー}学習—

新学期が始まって、早や4ヶ月が過ぎようとしています。皆さん、それぞれの学園生活を送っていることでしょう。

本年度のコスモスのメインテーマは『コンビニエンスライブラリー』—— その第1弾として今回は、夏休みを間近にひかえ、研究論文やレポートなどを作成する皆さんにとって少しでもヒントになればと思い、『コンビニエンス—^{シュエ}—^{シー}学習—』の特集をいたしました。

卒論作成で頭が痛い……というような方は是非お読み下さい。

もうすぐ夏休み、さあ暑さに負けず大いに頑張りましょう。

私のレポート攻略法

川瀬 絵理

“楽あれば苦あり”というように、長い、楽しい休みの前には必ず試験があり、また、レポートがある。私がまだ学生だった頃、(といってもほんの3ヶ月前のことだが…)普段の授業の中できちんと勉学に励んでいなかったためか、ほんの4、5枚のレポートにも頭をかかえたのを覚えている。

そんな私の心強い味方は、百科事典であった。図書館の2階の参考カウンター横辺りに揃っている。レポートの課題に関することは、すべて百科事典で調べてみた。調べることは何でもかまわない。人名、地名、語句等を調べていくと、どんどん知識が広がっていく。例えば人名で調べてみると、著書や、その人物に関する参考文献が載っていて、それを手がかりに、レポート課題に必要な資料を集める。その資料は開架書庫の思いもよらない場

所にあったり、またその場所から他の資料が得られる場合もある。もちろん、欲しい本が見つからない時もあるが、そういう時は自宅近くの図書館にも足を運ぶ。課題を与えられた時に、1、2冊の本を参考にするのではなく、大きな視野の中から本当に自分が書きたいと思うものを見つけ出すことが大切だと思う。百科事典の中には、あらゆる知識がつまっている。ある本の解説を読み、心揺れたりしたこと。その作者の本を全て読んだこともあった。私の知らなかった歴史上の人物のエピソードが載っていて、教育実習で役立ったこと。地誌に関する課題の時には、地球や自然を守ることの大切さを改めて痛感させられたこと等、様々である。

この方法は、言ってしまうとせばつまった私の最後の手段であったのだが、図書館の百科事典はいつも私を助けてくれた。

私のレポート攻略法、一度試してみてもはどうだろう。違った角度から色々なものが見えて、ドキドキするような発見にも出逢えると思うのだけど…。

(教務三課 かわせ・えり)

遠廻りのすすめ

後藤 武秀

レポートや卒論に取り組む場合、作業の第一歩は資(史)料の収集だ。ところが、これほど言うは易く行うは難しという格言がびつたりの仕事はない。

もう十年以上も前のこと。明治初年の犯罪と適用法との関係を調べた時のことだ。判例集などない時代のことなので、明治政府の記録である公文録というものを調べることになった。これは四千冊以上もある膨大な史料で、普通は目録によって必要箇所を検出し、マイクロリーダーで読みとる。ところが、それすら知らぬ駆け出しは度胸だけが頼り。国立公文書館に行けば見られるとばかりに足を運び、閲覧係嬢に、「公文録を閲覧させて下さい」とお願いした。閲覧係嬢は、何も知らない学生がやって来たと半ば呆れながらも親切に、「目録の請求記号を書くんですよ」と教えてくれた。ならば隣の目録室に駆け込んだのだが、目録検出自体が容易なことではない。目録の量そのものが膨大で、しかも一行記事がほとんど。これでは原本の方に何が書かれているか初学者には想像がつかない。適当にアタリをつけてマイクロを見てもアテはずればかり。困り切っていた僕に閲覧係嬢の笑いながらの一言、「全部ごらんになればいいんじゃないですか。」なんだ、そうすればいいんだ——意を決した僕は毎日のように公文書館通い、マイクロリーダーとにらめっこ。しかし美女の微笑に誘われたツケはおそろしいもので、全巻に目を通し終えた時には、約二年が経過していた。それでいて収集しえた史料はわずかに百余件しかなかった。しかし、そ

れは、これ以外にはないと確信を持って言えるものであるだけに、貴重な史料となった。

こんなやり方が今の時代に向いているかどうかは分らない。しかし、最近目録を見て何とか原本が想像できるようになってきたのも、この時の悠長な作業のおかげであることだけは確かだ。時間に余裕のある今、諸君も一度無駄を承知の遠廻りをしてはどうだろうか。

(法学部講師 ごとう・たけひで)

“あってよかった！”

なるほど コンビニエンス

村木 里絵

図書館より原稿依頼の電話がきた。㊦「お忙しいところ申し訳ありませんが…」㊧「え〜ちょっとやらなくちゃいけない事がありまして…」当然私は忙しいという理由で断わろうとした。何を隠そう図書館から拝借した本が目の前で山積みになっていたのだ。

メキシコのマヤ文明に非常に興味のある私は、赴任早々それについての文献を探しに、図書館を訪れたのである。日本ではマヤ文明に関する文献、特に建築についての資料は少なく、さほど期待もせずに(図書館の皆様ゴメンナサイ)足を運んだのである。しかし、そこには建築に関するものが2~3冊、その他諸々のものを含めると十数冊の本が並んでいたのだ。私は感激で目頭が熱くなった。…というのは大袈裟だが、さっそく教員の特権を利用して全てを借り、目の前の本を見てにやにやしていた。しかし借りた以上は、早く読み終えて返却する義務があるのである。こういう理由で(もちろん他にもする事は一応ありますが)原稿依頼の件は丁重にお断りしようとしたのである。

しかしその時、脳裏をよぎる声があった。

マヤの本を提供してくれた図書館、その他にもやっかいな本を探す手助けをしてもらっている図書館からの依頼を無下に断っても良いものかと。

そこで私は慣れないペン（製図ペンは慣れている）を執ることを決意したのである。

前置きが長くなったが、言いたい事はただ1つ、まず図書館に行ってみて欲しいということ。工学部の図書館は分館ということになってはいるが、結構色々ありそうです。地理的に近くに豊富な書店のない川越で、図書館は、正にコンビニエンスな所である。下宿の近くのコンビニに立ち寄るつもりでふらっと図書館に入り、ちょっと書棚をしてみる。すると興味を引く本が必ずあるはず。学生の特権である自由になる時間と図書館を大いに利用しない法はないと思う。

（工学部助手 むらき・りえ）

聞くも後悔、しかし 聞かざるは一生の後悔

柴田 隆行

かつて白山図書館の参考係にSさんという職員がいました。Sさんは社会学専攻の研究者でしたが、図書館でアルバイトをしているうちに書誌の世界にのめり込み、ついに図書館員となった人です。Sさんは心臓が悪いせいもあって（と誰かにあとで聞きました）、眼が悪く、眼を本にすり寄せるようにして読むその姿は図書館の一つの風物でもありました。私はかつて図書館で蔵書目録作成の手伝いをした関係もあってSさんとは親しく、なんでも気安く頼めました。

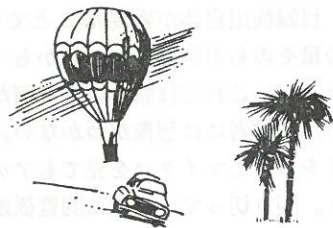
私はSさんに、ちょっと会ったついでに立ち話で、こんな関係の本がないかナー、と話しかけることがよくありました。しかしそう

言ったとたん私はいつも、もっと自分で調べてから相談すれば良かったと後悔しました。というのも、私の言葉を耳にしたSさんのエンジンは、私の後悔をはるか後ろに置き去りにして、すぐにも動き出し、動き出すと止まらず、眼を本にすり寄るまですり寄せて徹底的に調べ始めるのです。参考資料を集め、他大学の諸機関に問い合わせ、といった具合で、ちょっとした立ち話がかもはや立ち話では済まされず、私はついにそのことを本格的に研究せざるを得なくなるといった具合でした。

たとえば、最近私は哲学史がどのように形成されてきたかを調べ、欧米および日本の哲学史の歴史に関する文献データの収集ではおそらく他にひけをとらないところまで来ました。これもついSさんに尋ねたのが〈運のつき〉の結果です。しかしまた、それはなんといってもSさんのおかげでもあります。

ところで、そのSさんは一昨年の2月に45歳で亡くなりました。以来私は自分で調べることにしましたが、図書館にはSさんのような方が大勢います。皆さんもちょっと声をかけてみませんか。きっと自分の研究テーマがそれをきっかけに決まることでしょう。

（文学部助教授 しばた・たかゆき）



《表紙の絵》

いよいよ夏休み。勉学にサークル活動にバカンスに最もふさわしい季節を迎えます。

そんな学園生活の1コマをすてきな絵にしてくれたのが法律3年の宇野朗君。さあ夏だ!!

なぜ解きはお好き？ MCMXCI?

—引用文献の成り立ちを知るために—

- A. 昭和38. 4. 26 東京地 昭35 (ワ) 2195
判時 336 P38
- B. 新潮 11 84-11 29
- C. Behav Inf Technol (GBR) 8 [I] 23-
32 '90

たとえば上記A. B. C. のような表示が、著者、論文名のあとにあります。正確にこの意味する事項を解いて、文献を入手しましょう。どの場合も、引用あるいは記載している本の“凡例”を丹念に見ればいいのですが、凡例を欠くものもあります。その場合、一般的な成り立ちを知っておくと便利です。

(Aの例)

昭和38.4.26は判決日、東京地は裁判所名で、東京地方裁判所、昭35 (ワ) 2195は事件番号、判時は雑誌名で、判例時報、336はその号数、P38は38頁からはじまるの意。

法律関係の雑誌は省略型が多いので、略語一覧を見ておくこと。(図書館にあります)

また、文献リストによっては、図書と雑誌を区分して載せています。なぜ図書と雑誌を区別するかというと、検索の方法が異なることが一因です。区別していない文献については、判断が必要です。その記載事項の目安は、おおよそ以下のようです。

図書—著者、書名のほかに出版社、発行年、頁数は ○○Pとなる。

雑誌—著者、論文名のほかに巻号数、発行年月(日)、頁は、P○○あるいは P.P. ○○~○○(Pの位置に注意)

ただし、図書と雑誌の境界領域にあり、探す時、やっかいなものたちがいます。定期大会やシンポジウム、委員会の報告です。(注1)

(Bの例)

新潮は雑誌名、11 84-11 29 と数字が並ぶ?と誤ってしまいますが、11は発行月、84・11は巻と号、29は論文のはじまる頁。こ

の例は「国文学年鑑」ですが「国文学」と表示してあれば、「国文学解釈と教材の研究」のことです。他の「国文学」と間違える人がたくさんいる要注意雑誌です。

(Cの例)

Behav Inf Technol は Behaviour and Information Technologyの略誌名、(GBR)は発行国で英国のこと、8 [I] は巻号数。

この例は、「科学技術文献速報・管理システム編」です。雑誌名の冠詞、前置詞、接続詞と各語の末尾は省略されていて、所蔵調査の際は完全誌名が必要です。(注2) また、キリル文字は翻字してありますので、翻字表を参照します。

このように、[], (), / — など句読点、イタリック体の文字に注意が必要です。

この他にも、一般的なこととして、著者名、特に外国人は姓がどこからなのか、まず確かめましょう。Walter John De la Mareは、De la Mareが姓です。

また困ることには、引用文献の記載は、かなり省略されることが多く、シリーズ名や出版年、編者名などがなくて、探せないことがあります。前後関係の類推も含め、いろいろな可能性を考えて、探して下さい。

(注1) 参考文献 () 内は請求記号
Bibliographic guide to conference
publications. Mass, Hall, 1988-(060.31:B)
World guide to abbreviations of
organizations. Blackie, 1991.(060.35:BF:2)
Index of conference proceedings. 1964-
1988. Saur, 1989. (060.39: I)

(注2) 参考文献
Periodical title abbreviations.
Gale, 1977-(050.39:P)

<付録>

ローマ数字が年号や巻数表示に使われます。さて、この文の見出しMCMXCIは? M=1000, C=100, L=50, X=10で正解は1991でした。

蔵書探訪 6

故飯島宗享先生 蔵書に惟う

小野島 康雄

このたび、故飯島宗享教授の蔵書が、東洋大学図書館で閲覧できる運びとなった。喜ばしい限りである。飯島家のご好意、図書館関係者のご努力に感謝したい。

故飯島教授の蔵書は相当数にのぼるが、その中の洋書577冊、和書13冊が図書館に入ることになった。和書は手元に残したいという飯島家の意向で、図書館に入った本はほとんどが洋書である。キルケゴール関係の蔵書が中心であるが、その中には貴重書といえるものも幾つか含まれている。生前、先生は図書館の本を多く使われていたようで、和書の数に比べると、洋書が意外に少なかった気がする。それにしてもキルケゴール関係の蔵書はさすがに立派なもので、これらが図書館で自由に閲覧できることは、私自身はもちろん学生諸君にとっても幸だろう。

飯島蔵書を簡単に紹介する。まず、キルケゴールのデンマーク語全集、パピアーと通称されるキルケゴールの遺稿集を初めとして、様々な編集、独訳、英訳、フランス語訳などを入れると、キルケゴールの著作が、百三十冊あまりにものぼる。なかにはスウェーデン語訳『不安の概念』などもあり、いったい誰が利用するのだろうと首を傾げたくもなるが、いざ入手しようとしたらちょっと手には入らない類いのものであろう。

キルケゴール研究に欠かせない資料として、まず第一にコルサルがあげられる。キルケゴールの伝記の中で、コルサル事件として有名な新聞である。この事件の詳細を調べるには欠かせない資料であるが、なかなか見る

ことのできなかつたものである。飯島先生所蔵のコルサルはキルケゴール当時のもので、その点でもたいへん貴重なものである。また、ブランドスの全集も貴重である。ブランドスは、キルケゴールを世界に紹介する先駆けとなった人物で、彼のキルケゴール研究にも重要なものがある。またデンマークの教会史なども資料として重要であるし、キルケゴールと同時代のデンマーク語聖書、デンマークの文学に関する資料も豊富にある。さらに、ハーマンの全集も、キルケゴールに与えた影響の点からして、重要なものとしてあげられる。ヘーゲルの著作もキルケゴール研究にはもちろん欠かせないが、ヘーゲル全集としては揃っておらず、何冊かの著作があるだけだ。その中で特筆すべきは、1817年版の『エンテクロペディー』、1827年の『法哲学』である。これはまさに貴重な本であり、本来ならば貸出禁止になって当然のものだが、この貴重な本が借りられるのである。図書館は本を死蔵するところではなく利用するところであるという精神が貫かれており、尊敬に値する姿勢だといえるのではないか。我々利用する側も肝に銘じておきたいものである。

さてキルケゴールの研究書は、デンマーク語、ドイツ語のものがそれぞれ約五十冊、英語のものが二十数冊にのぼる。さほど古い研究書はないが、1950年前後のものから、重要なものがほとんど揃っているといえよう。ドイツ語や英語の研究書は重複するものもかなりあるだろうが、デンマーク語の研究書はこれまで図書館に無かったものがほとんどであろう。デンマーク語の書籍は利用者が少ないとはいえ、キルケゴールの母国のものだけにやはり重要だ。もともと東洋大学図書館は、キルケゴール関係の書籍に関しては他大学にも誇れるものであったが、これでよりいっそう充実したといえるだろう。

その他の書物は様々であり、一見、雑本としか言い様がないかに思えるが、考えように

よってすべてキルケゴールと関係があるともいえる。すなわち、飯島先生の研究範囲がキルケゴールを中心にして広がってきたことを、これらの様々な書物は示している。また、先にあげたキルケゴール関係の本が、誰もが認めるキルケゴール研究に必要な書物であるのに対して、それら以外の雑本がむしろ、故飯島宗享教授のキルケゴールに対する個人的な姿勢をよく表現しているともいえる。とはいえ、実に雑多なもので、いちいちを紹介することはとてもできない。目に着くところではルカーチ、ハイデカー、ヤスパース、サルトルといった二十世紀の実存思想に関わるもの、バルトを初めとするキリスト教的思想に関わるもの、ボードレール等、文学関係のものまでが散見される。もちろん、キルケゴール以後の実存思想に関わるものが、その中心であることに異論はない。しかし、例えば先にあげたルカーチ、ハイデガー、ヤスパース、サルトルにしても、全集として揃っているわけではなく、数冊ずつあるにすぎない。おそらく特によく読んだもの、よく利用したものだけを手元に置いておかれたのだろう。実存思想に関する研究書もみられるがこれらも実際に利用したもの、利用しようとしていたものだけが手元に置いてあったものと考えられる。

こうした様々な本を漠然と眺めていて思うのは、飯島先生の遺作『自己について』だ。この著作はもちろん「自己」を主題にしている。しかしその際、自己について考えることがそのまま、人間、世界、事物の問題について考えることになるという連関をつねにふまえていることが、この著作のユニークな点である。自己とは、真理をそのつど自分のものとして生きる格闘の場、あるいはその行為そのものであり、そうであれば、自己は歴史的、社会的問題と直接的に連関せざるを得ないからだ。むしろ自己こそが歴史的、社会的問題を真に浮かび上がらせる場にほかならないと

いうべきかもしれない。飯島先生の蔵書を見ると、何等かの意味でその時代時代に自分の社会と、また同時に自己自身と格闘し続けた思索家たちが勢揃いしているといえる。そして、彼等のそうした面を如実に表している著作が多いように思われる。その意味で、いわゆる一般的な分類を拒む様々の本が見られるのではないだろうか。そういう先人たちの思索の跡が、あるいは格闘の跡が、飯島先生の思索へと結実していったようにも思える。とすれば、この蔵書は飯島宗享の思想、研究を知る上で欠かせないものである。

キルケゴール研究に関してみれば、先生が、当時ひじょうに高価で手に入りにくい「コルサル」を、おそらくは経済的にもそうとう無理をして購入された理由も、キルケゴールのコルサル事件に、彼の社会との格闘の跡を見出だし、それが彼の自己への思索にどう関連してくるかを明らかにすること、これを研究課題としてのことであつたらう。キルケゴールには社会に対する視点が欠如しているのではないかといわれるのが通例で、このような点からキルケゴールを考察したものはこれまでになかった。飯島先生のコルサル事件の研究が完成していたならば、キルケゴールの新たな一面を浮き彫りにするユニークな研究になったかもしれない。

こう考えて、改めて故飯島教授の蔵書リストを見ると、不思議なほどにその一冊一冊がそれぞれ納得でき、一見すると雑本のようにしか見えなかったその蔵書が、飯島先生を偲ばせる、まさに飯島宗享の個性を我々に伝えてくれる、まとまりを持ったものに思えるのである。

故飯島宗享教授の蔵書は、キルケゴール研究の資料としても、また先生の個性的な思索の跡を知る上でも、東洋大学の貴重な財産となるに違いない。

(文学部助手 おのじま・やすお)

図書館 あ・ら・かると

★夏休み中の図書館利用について★

夏休みの間、各図書館とも開館日、開館時間などが変更されます。また、資料の貸出しについても期間、冊数が通常と異なります。詳細は各館の“夏休みのしおり”や掲示等をご覧ください。

どうぞ、大いにご利用下さい。

★ 白山 見て見て聞いて ★

白山では、4月から5月にかけて図書館オリエンテーションが開催されました。4月には図書館ツアーと題して館内見学が、5月には図書館ガイダンスと題して資料検索入門、CD-ROM利用法の説明会がありました。合計230名ほどの参加者を得、好評のうちに幕を閉じました。この続編を秋にも開催の予定ですので、みなさんぜひご参加下さい。

★ 朝霞 見て見て聞いて ★

朝霞名物“専任教職員著作コーナー”オープン後2カ月の5月末現在159名の先生の著書624冊が置かれています。学生のみなさんにはもちろん、先生方にも好評!! 残念ながら原則としてこのコーナーの本は館外貸出しできません。でもご安心を。同じ本を揃え一般書架にも並べてあります。そちらはもちろん貸出可。どんどんご利用下さい。

★ 工学部 見て見て聞いて ★

工学部分館では、この前期試験期に、開館時間延長と日曜開館を下記のように行います。どうぞ、ご利用下さい。

- ・期間：7月4日(木)～17日(水) (14日間)
- ・時間： 月～金曜 9：10～19：00
- 土 曜 9：10～16：00
- 日 曜 10：00～16：00

↑CDの新しいものが、入りました。まだ利用されていない方、是非、ご利用下さい。詳細については、カウンターで、お尋ね下さい。

★1990年度の統計から★

図書館の現況の一端を数字でご紹介します。

表1 蔵書冊数 (91. 3. 31現在)

白山	552,134冊 (昨年比 14,846冊増)
朝霞	133,519冊 (同 15,839冊増)
工学部	124,044冊 (同 4,117冊増)
計	809,697冊 (同 34,802冊増)

表2 所蔵雑誌総タイトル数

白山 8,090	朝霞 1,421	工学部 2,118
----------	----------	-----------

表3 館外貸出総冊数

白山 42,401	朝霞 19,528	工学部 20,168
-----------	-----------	------------

★編集後記★

今回の特集は『コンビニエンス^{シューシー}—学習—』4人の方に各々の体験を語ってもらいました。きっとお役に立つと思います。

なお、表紙のデザインは昨年度に引きつぎ、学生の皆さんからご応募いただいたものです。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **KOSMOS**
 1991夏 (No.94) 1991年7月8日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：山崎正巳 発行所：東洋大学
 付属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03(3945)7314 ©東洋大学付属図書館 1991